

胸有成竹

← 中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から → 文と訳・^{ういくす}有為楠 君代

2回目は、「胸有成竹」という言葉です。これも余り聞きなれませんね。

「昔、文同と言う名の画家がいました。竹の絵を描くのがとても上手かったので、毎日多くの人が彼の家を訪れて、彼に竹の絵を描いて欲しいと頼むのでした。もともと文同は、家の庭に多くの竹を植えていて、いつも竹が成長する様子を観察し、竹の枝が伸びる様子や葉の色の違いを細かく描き分けていました。文同は、何か新しい感覚を掴むと、急いでアトリエに帰って、突然沸き上がったインスピレーションを基に絵を描き上げるのでした。それで、竹の絵は益々上手になりました。

一人の青年が竹の絵の書き方を習いたくて、文同の絵について研究している晃補と言う人に教をを請いました。晃補は、『文同が竹の絵をうまく描けるのは、彼の心の中に竹の様子がしっかりと詰まっているからなんだよ!』と言うのでした。」

意味の説明としては、「もとは、竹の絵を描くには、心の中に竹のイメージをしっかりと持たなければならないという意味だが、転じて、何事もうまくやるには、事前にしっかり計画を立てて当たらなければならないという意味となる。」

例文としては、「彼は今回初めて舞台上上がったが、まるで胸中に竹が育っているように(しっかり練習して、自信をもって立派に)演じた。」と出ています。

4, 5歳の子供にこんな話をして分かるのか、と毎度思っていますが、きっと「昔、竹の絵のうまい絵描きさんがいて、お家の庭に竹をいっぱい植えて、毎日観察していたので、益々上手になったんだって。皆も良く見て描くと上手に描けるようになるよ。」という程度で、先に進むのかもしれないね。毎回のお話が少しずつ残って、子供たちの心の中で何かが

芽生えることを期待するのでしょうか。

日本語では、「胸に成竹あり」と言い、すでに成算があるとか、あらかじめきちんと考えてあるとかいう意味で使われるそうですが、私は寡聞にして、実際に使われているのを見聞きしたことがありません。辞書の説明によると、実行すべき計画を細部まで詳細に検討し、成功間違いなしという状態まで練り上げることだそうです。

あらかじめきちんと考えてある、とか準備が出来ているとかいう意味では、「用意周到」という言葉を使いたくなりますが、これは中国の四字成語ではないようです。確かに「用意」という中国語は、「意図」とか「心積り」という意味ですから、日本語で言う「用意周到=あらかじめきちんと準備する」の意味にはなりませんね。これは日本で出来た言葉のようです。

私は日頃、余り気にせずに「四字熟語」を使っていたが、「四字成語」と「四字熟語」は完全

に一致している訳ではないようです。「四字成語」は中国発祥の言葉で、どんな本に書いてあるとか、誰がどんな時に言った言葉であるとか、昔こんな事があって人々がこう言い慣わすようになったとか、必ずお話があって、それを聞くと言葉の意味がよく分かるようになっています。それに対して、日本で出来た言葉は背後にお話こそありませんけれど、並んだ四文字を見ただけで、意味がすぐ理解できます。ちょっと拾ってみただけでも、「当意即妙」、「神出鬼没」、「天変地異」など、意味はすぐに分かります。改めて、日本人の造語力にも脱帽です。

図書館などでざっと調べてみますと「四字成語」辞典に「四字熟語」は含まれませんが、「四字熟語」辞典では、「四字成語」に「四字熟語」も含めて解説しているようです。

